北方領土Facts&Figures

【主な引用文献】

われらの北方領土2015年版

沖縄・北方対策庁『北方地域総合実態調査書（国後島の部）』（1970年）

沖縄・北方対策庁『北方地域総合実態調査書（択捉島の部）』（1971年）

沖縄・北方対策庁『北方地域総合実態調査書（歯舞群島の部）』（1970年）

沖縄・北方対策庁『北方地域総合実態調査書（色丹島の部）』（1970年）

北海道総務部『戦前における歯舞・色丹・国後・択捉諸島の概況』

北海道『千島調査書』（1956年）

領土復帰北方漁業対策本部『色丹島及び歯舞諸島調査書』（1956年）

歯舞漁業協同組合特別企画室『終戦前に於ける歯舞諸島沿岸漁業調査資料』（1956年）

日本捕鯨協会　『1941年以降沿岸捕鯨統計』（1954年）

北方領土文化日露共同学術交流実行委員会『北方領土の神社』（2005年）

南方同胞援護会編『北方地域資源調査書（昭和36年3月）』（1961年）

田中薫・大野笑三『色丹島概説』（1940年）

北海道農事試験場根室支場調『千島調査資料』（1935年）

衛星画像 ©Geoscience, NTT DATA, RESTEC / Included©JAXA

島登の硫黄鉱床（しまのぼり）

羅臼（らうす）火山の北方中腹にあった硫気孔（りゅうきこう）付近の島登硫黄山として、採掘を試したが、明治22年には原鉱が尽きて休止した。

左上 精錬所（製石からとった金属を精錬する所）右上 選別所（とり分ける所）倉庫（沼村鉄刃別（ちぶかりべつ）二木地区島島）　写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_07.html

東沸湖（とうふつこ）

鏡のような湖面は、湖辺を取り囲んでそびえ立つ森林と相まって、見事な景観である。湖の南西岸には北海道庁鮭孵化場国後支場が存在した。

東沸湖にて鮭の引網の光景（沼村東沸地区東沸）
写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_08.html

一菱内湖の硫黄鉱床（いちひしないこ）　1939年～41 年

宝沼鉱山の北側に位置する一菱内湖岸には硫気孔があり、周囲の安山岩の中に鉱染する硫黄鉱床が存在した。

一菱内湖の鉱山作業所の光景（沼村東清地区東清）
写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_11.html

植内の昆布採取（うえんない）

国後島の産業は、古くから漁業（主に鮭鱒漁業）を唯一の生業としていたが、漁業の不振に伴い、蟹、帆立などの沖合漁業へ進出することとなり、海藻採取業も盛んとなっていった。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_02.html

古釜布の蟹缶詰工場（ふるかまっぷ）　1939年～41年

蟹缶詰合同株式会社は昭和14年11月に創立。本社は根室町に存在し、古釜布、色丹、志発の3か所、全工場で計5つのラインがあり、たらば蟹および毛蟹の缶詰が製造された。

古釜布蟹缶工場の女工さん（沼村古釜布地区古釜布）
写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_06.html

白糠泊海岸の昆布採取（しらぬかとまり）

白糠泊港は根室港から74海里の位置にあり、留夜別村に属していた。戸数約40を数える住民の多くは昆布採取を主業とした。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_02.html

爺爺岳（ちゃちゃだけ）

国後島北東部にそびえる爺爺岳は北方四島の中で最も高い山で、二重式成層火山である（活火山）。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_03.html

白糠泊湾（しらぬかとまり）

白糠湾の北東隅に位置する白糠泊港は全体的に平地が少なく、白糠泊の小部落が存在したのみである。暗礁が点在するものの、中央部は船の停泊に適していた。

白糠泊湾（留夜別村白糠泊地区白糠泊）　写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_02.html

千国川（ちくに）

千国川は、国後島の中央部にある高地が水源とし、川の両岸のほとんどは山地か台地で、所々で放牧が行われていた。

チクニ川橋（留夜別村植内地区チクニ）　写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_04.html

国後島の様子

国後島の面積は北方領土全体の30%。
火山島である国後島は10数箇所の温泉に恵まれていると共に、材木岩のような景勝地もある。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_01.html

国後島の産業

国後島の水産はコンブ・サケ・マス・タラバガニ・ホッキ貝・ホタテ貝・エビ・ナマコ等であった。
千島鉱山（金、銀）、瀬石鉱山（硫黄及び硫化鉄）、東沸鉱山（硫黄）、宝沼鉱山（硫黄）、の有望な鉱床が存在した。

古釜布ホタテの漁業風景・缶詰工場（写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟）

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_01.html

国後島の帆立漁業（くなしりとう）　1939年～41 年

古くから漁業を唯一の生業として、鮭鱒漁業によって生計を立てていたが、沿岸漁業の不振に伴い、蟹、帆立などの沖合漁業へ進出し、水産加工業も盛んとなっていった。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_05.html

瀬石温泉（せせき）

瀬石海岸は一帯が砂浜であり、部落が存在した前面の海浜には至る所に温泉が湧き出る。

瀬石温泉の砂浜の風景（沼村古釜布地区瀬石）　写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_06.html

東沸缶詰工場（とうふつ）　1939年～41 年

国後島の水産物のうち、タラバガニ、ハナサキガニ、ホッキ、ホタテ貝、エビなどは缶詰に加工されていた。

缶詰工場作業状況（沼村東清地区東清）　写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_09.html

瀬石港（せせき）

国後島東海岸の中央、古釜布湾（ふるかまっぷわん）の西端に位置し、港外付近の海底は砂質で、遠浅である。東沸・古釜布両港と共に不凍港であった。

近布内ローソク岩付近で見布干し風景（沼村古釜布地区近布内）
写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_05.html

東沸村孵化場（とうふつむら）　1941年～44年

国後、択捉二島の産業として鮭鱒族の人工孵化事業があり、千島における主要水族である鮭、鱒の資源維持培養に重要な地域であった。

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_01.html

東沸川（とうふつがわ）

東沸川は長さ約4kmで、東沸湖を水源として平地を緩やかに流れ、東沸港内の中央に注入する。

東沸川のヒメマス漁、手前の網に注意に魚を引掛ます。八物は魚を集めた。

東沸川のヒメマス上流の橋に多き分配する光景（沼村東清地区東清）
写真提供：千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-02-geo--04_07.html

宝沼鉱山（たからぬま）　1939年～41 年

宝沼はもともと爆裂火口で硫黄と温泉を湧出しており、湖底から湧き出る熔融（ようゆう）硫黄を船上からバケツのようもので汲み上げて採取していた。

ポントウ沼硫黄鉱・
湖底から手バケツで汲み上げる
（沼村東清地区東清）
写真提供：
千島歯舞諸島居住者連盟

https://www.spf.org/islandstudies/jp/info_library/northernterritories-03-industry--04_10.html